

★ 山城地域・丹後地域 チャノココクモンハマキに注意★

山城地域・丹後地域での病虫害巡回調査の結果、チャノココクモンハマキの発生量が平年より多くなっています。

多発するおそれがありますので、適期の防除を徹底してください。

- ・ 山城地域・丹後地域の防除適期：
6月第5半旬～7月第1半旬（6月20日～7月5日）



チャノココクモンハマキ：雌成虫 チャノココクモンハマキ：雄成虫 幼虫



チャノココクモンハマキの被害葉（新芽）



チャノココクモンハマキの被害葉（古葉）



チャノコカクモンハマキの卵塊及び若齢幼虫

注) 写真は京都府茶業研究所提供

発生状況等

令和8年6月中旬現在、チャノコカクモンハマキの発生量は平年比多くなっている(表1)。

表1: 令和8年6月中旬現在のチャノコカクモンハマキの発生量

地域	項目	本年	平年値
山城	綴葉数(m ² 当たり)	1.2	0.1
	幼虫・蛹数(m ² 当たり)	0.1	0.1
	発生ほ場率(%)	21.1	6.7
丹波	綴葉数(m ² 当たり)	7.8	8.2
	幼虫・蛹数(m ² 当たり)	0.0	1.5
	発生ほ場率(%)	50.0	42.5
丹後	綴葉数(m ² 当たり)	5.5	0.8
	幼虫・蛹数(m ² 当たり)	0.3	0.2
	発生ほ場率(%)	75.0	25.8

調査日: 令和8年6月15日~18日

防除上の注意事項

- (1) 通常、第1世代幼虫ふ化期は5月末~6月初めで、年4回世代を繰り返す。
- (2) ふ化した幼虫は成長すると、葉を綴って食害するようになり、薬剤が掛かりにくくなるので、ふ化直後の若齢幼虫期の防除が効果的である。
- (3) ジアミド系及びIGR剤などの薬剤の効果が低下している地域があるので、これらの薬剤の効果が低いと感じられる場合は、別の系統の薬剤を選択する。